

# 集団宿泊的行事を生徒と協働で作る 現地学習を 生徒にとっての学びの場とするために

著者	金森 久貴, 田中 雄太, 室谷 洋樹
雑誌名	高校教育研究
号	74
ページ	53-60
発行年	2023-03
URL	<a href="http://doi.org/10.24517/00069774">http://doi.org/10.24517/00069774</a>



# 集団宿泊的行事を生徒と協働で作る

— 現地学習を生徒にとっての学びの場とするために —

75回生担任団 金森 久貴, 田中 雄太, 室谷 洋樹

金沢大学附属高等学校の一年次および二年次に実施される集団宿泊的行事（以下現地学習と記載）について、従来教員主導で行っていた企画・運営に、生徒が主体的にかかわるデザインを施すことで、現地学習の教育的効果がどう変容するか検証する。一年次には、1泊2日の現地学習を丸ごと企画する機会を生徒にあたえ、コンペティションで企画を選定した。選ばれた企画の作成グループが、旅行社・教員と打ち合わせを行い、現地学習の実施・運営まで深く関わった。二年次には、3泊4日の現地学習の2日目の企画を行うことを生徒に依頼し、生徒は3コースのプランを作成した。また、現地学習の移動中や宿泊施設でのレクリエーションを行うことについても依頼した。その他の部分については旅行社と教員の打ち合わせで旅程を決定した。

現地学習の設計に上記のデザインを施したうえで実施した現地学習は、企画を行った生徒にとってどのような教育成果をもたらしたか、多くの生徒が宿泊を伴う学校行事である現地学習がどのような教育的意義や効果をもたらしたか分析した。

キーワード：特別活動 学校行事 集団宿泊的行事 修学旅行 生徒主体

## 1. はじめに

学習指導要領第5章特別活動の学校行事の目標には、「学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。」とある。この目標を達成するために本研究を行った。

佐伯ほか（2007）が中学校の第一学年105名に対して、集団宿泊的行事の教育効果を性別に着目して研究したように、集団宿泊的行事の教育効果を測定し、高めようとするための探究は学校種を問わず継続的に行われてきた。その一方で、集団宿泊的行事の教育効果を高めようとする考えは、教員や旅行社に主導権がある状態で行われることが多いように感じられる。金沢大学附属高等学校においても、生徒が自らの宿泊行事に対して主体的に内容をデザイ

ンしていくことは、これまで行われてこなかった。

金沢大学附属高等学校では、3年間を通して担任が変わらず一つの学年を担当してきたという学校文化がある。また、一つの学年では1回、ないし2回の現地学習（宿泊を伴う学校行事）を行うことが通例となっている。今回学年を担当するにあたって、現地学習を教員だけが企画して生徒をお客さんにする行事ではなく、生徒が主体的に関わり、企画運営を行う学校行事としたいと考え、現地学習に関わる二年間の実践を行った。その経緯と成果、および考察について記載する。

2章、3章では、2021年（高校1年次）に行った1泊2日の現地学習と、2022年（高校2年次）に行った3泊4日の現地学習について、事前準備から現地学習当日に至るまでの概要を記載する。4章では現地学習が生徒にもたらした変容等、教育効果につい

て記載する。なお、金沢大学附属高等学校の現地学習は、渡會ほか(2021)の実践以来、ソーシャル・ネットワーキング・サービスの一つであるスラックを活用して行われている。

## 2. 2021年の加賀現地学習(2021/11/2-3)

○4月27日(火) 現地学習企画メンバー募集の際に教員から「現地学習の意義」の説明、74回生による「修学旅行を科学する」のプラン紹介を行う。

※「修学旅行を科学する」とは、仮想の学校平和町高校で行われた取り組み。

○5月19日(水) 第一回現地学習企画説明会では近畿日本ツーリストの山元智之氏から、現地学習の企画の際の制限と企画の考え方について説明、担任団から現地学習の教育的な目的についての説明を行った。3~4人のグループに分かれて、2週間の期限内に1泊2日の現地学習企画のプレゼンを作成することを依頼。企画に参加した人数は27名。本来、4、5人程度の少人数での実施を考えていたが、希望者が多かったことから急遽コンペ形式とした。

○5月31日(月) 第一回コンペで、これまでつくってきた企画のプレゼンを、近畿日本ツーリストの山元智之氏、合同会社楽しい学校コンサルタントSecond代表前田健志氏の両名と、他のグループの生徒に対して実施してもらい、相互に質疑を行う。特に旅行業者、教育コンサルタント両名からの、その道の専門家からの指摘を受けることが目的。

○6月11日(金) 第二回コンペ&投票行動において、投票により現地学習企画を決定する。教員の意図を介入させるかどうか、75回生担任団で事前協議するも、生徒の意見を尊重することとなった。企画決定後は、企画したグループを中心に細部の調整をお願いしたが、選ばれなかったグループからも、またその他の生徒からも、希望すれば細部

の調整を行うグループに入ることは可能とした。その際参加してくれた生徒の総数は12名だった。コンペで選ばれたグループは5名のグループだったので、希望者が7名自主的に参加してくれた。



写真1 74回生「修学旅行を科学する」体験メンバーによるプランの紹介



写真2 5月19日近畿日本ツーリスト山元さんからの説明



写真3 6月11日 第二回コンペの様子

### ○現地学習の実際

7月中旬に実施予定だった現地学習は、コロナ禍の影響により11月2、3日に日程変更となり、その結果現地学習委員会がプランを練っていた総合的な探究の時間の中間発表は実施することが出来なかったが、現地学習そのものは無事実施できた。

その際の旅程表と事後アンケートは次に記載。(図1, 2, 3)

ご旅程表		行先	ご旅行期間	出発	到着	乗込人数	乗車日数
金沢大学附属高等学校 1年生様		北陸	2021年 10/29~31日	12:0	6	12名	10/31
月・日	行程	乗車区間					
11/2	金沢駅西口 ..... 加賀温泉駅 ..... 山代温泉(泊)	【山代温泉】 「蓬瀛荘」 TEL:0761-77-0000 FAX:0761-77-1900					
11/3	山代温泉 ..... 金沢駅						

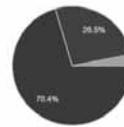
図1 生徒作成のスケジュールを近畿日本ツーリストが修正した旅程表

### 75回生1年次現地学習 振り返りアンケートより

(1)

現地学習の満足度を教えてください。

92件の回答



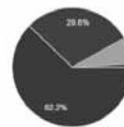
- とても満足
- 満足
- 不満足
- とても不満足

(2) 現地学習委員会が作成したプログラムは、現地学習のねらいに合致していましたか。

(参考: 現地学習のねらい) ① 現地学習を、自分たちでデザインし、選考することで現地学習の教育効果を高める。② 現地学習を、学校の学習(教科の学習)と地続きのものにする意識を高める。③ 現地学習の選定に生徒の目を入れることで、学校行事を自分ごととして考える。

現地学習委員会が作成したプログラムは、現地学習されることで、学校行事を自分ごととして考える。

92件の回答

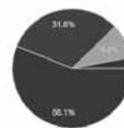


- 合致していた
- やや合致していた
- あまり合致してはいなかった
- 合致してはいなかった

(3)

現地学習委員会が作成したプログラムは、あなたの学習意欲を高めるものでしたか。

92件の回答



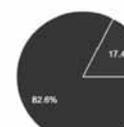
- 高めるものだった
- やや高めるものだった
- あまり高めるものではなかった
- 高めるものではなかった

図2 学年通信アンケート(金森による)

### 【アンケート結果(11月5日実施)】

1. 現地学習は学習面で充実していたと思いますか。

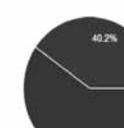
92件の回答



1. 現地学習委員会としては満足できない部分も多かったが、学習面のアプローチとしては良かったのかもしれない。

2. 現地学習委員会がどのような活動をしていただいていたかをご存じですか。

92件の回答



2. 周知の方法が十分ではなかった。周知の方法をより機軸すれば、より協力的な反応を生徒が示してくれたのかもしれない。

3. 現地学習のコースを選択式に出来たことは良かったですか。

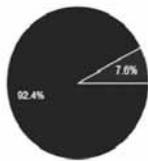
92件の回答



- はい
- いいえ

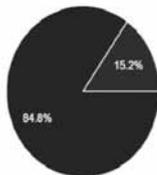
図3-1 学年通信アンケート(生徒)1ページ目

4. 自分が回りたい人と行動出来たことは、良かったですか。  
92件の回答



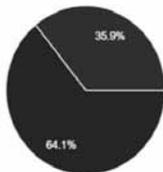
5の質問は、2日目の活動で、事前に知識や新しい視点を得てから行動したことは良かったですか。（「事前に知識や視点を得て」というのは、バスの中で、Slackのつぶやきに挙げられた情報を確認する。バスの中で、レクリエーションをする。などです）

5. 2日目の活動で、事前に知識や新しい視点を得...スの中で、レクリエーションをする。などです  
92件の回答



● はい  
● いいえ

6. 現地学習委員会、schola活動といった授業以外の活動を行いたいと考えていますか。  
92件の回答



● はい  
● いいえ

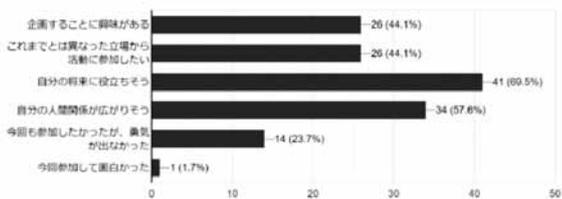
図3-2 学年通信アンケート（生徒）2ページ目

また、現地学習委員会に参加していた生徒たちが、自発的にリフレクションの時間を設け、自分たちの取り組みの良かったところや悪かったところを振り返った。教員側ではリフレクションの場面をデザインしていなかったにも関わらず、生徒が自発的にリフレクションを行ったことには、学校行事を自分ごととして引き受けていることが行動として表出している状態だと考える。

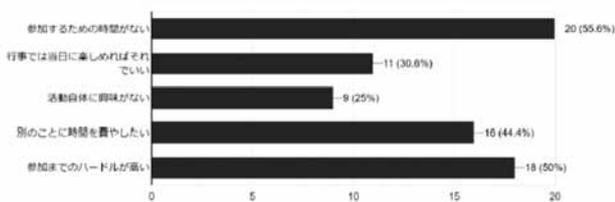


写真4、5 現地学習委員会の生徒によるリフレクションの様子

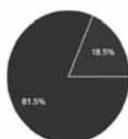
7. 3で「はい」と答えた方にお聞きします。なぜ、そのように思うのですか。  
59件の回答



7. 3で「いいえ」と答えた方にお聞きします。なぜ、そのように思うのですか。  
36件の回答



8. 今回、現地学習委員会へ参加するかどうかは学...ましたが、その伝え方は良かったと思いますか。  
42件の回答



● はい  
● いいえ

7の質問は、6の質問で選択したものに基づいて答えてもらいました。

図3-3 学年通信アンケート（生徒）3ページ目

この際話し合った内容をまとめたものについて、以下記載する。情報提供者はTさんという生徒。

- ・「修学旅行×教科の学習」というテーマがとても難しかった。この点に関しては、先生をもっと頼るべきだった。
- ・生徒と先生でうまくコミュニケーションをとることができなかった。スケジュール観の共有もしていなかったし、生徒がやるのか、先生がやるのかわからない部分があった。
- ・行きたい場所についてのアンケートを取るべきだった。コンペの投票率が悪く、少数生徒の意見しか、反映されていないプランだったので、コンペ後にアンケートを取っていたら、より多くの生徒が納得できるプランになっていただろう。
- ・コンペ後関わる人が大幅に減って、仕事が集中し、大変だった。

「生徒と先生でうまくコミュニケーションをとることができなかった。スケジュール観の共有もしていなかったし、生徒がやるのか、先生がやるのかわからない部分があった。」

という部分について、以下のように解答した。

→このあたりは私もうまくできなかったなーと振り返っているところです。生徒と先生の分担や準備範囲がはっきりしていませんでしたね…  
現地学習の振り返りを共有してくれてありがとうございます。リフレクションも含めて学びだと思います。今回はチャレンジが前提だったので、色々ご迷惑をおかけしました。お疲れ様でした。

生徒のリフレクションでも指摘されていたように、現地学習生徒企画への教員の関わり方には不十分な点があったと考えている。まず、教員間の情報共有が不十分であった。生徒との窓口を金森が独占してしまい、情報共有ができていなかった。実際に学年団の先生からも「他の教員に参加できる余地があまりなかった」というフィードバックがあった。限られた生徒と教員の閉じられた空間で行われていた企画だったので、他の教員や生徒たちには見えない部分が多かったことが反省点であった。

#### ○2021年の反省点

- ・教員の立ち位置があいまい。
- ・かかわった生徒の拘束時間、負担が大きかった。
- ・コンペ形式だったために多くの生徒の努力が形として残らなかった。
- ・当初27名だった参加人数が、実際の現地学習に際して活動できた生徒は12名だった。

### 3. 2022年の九州現地学習 (2022/11/22-25)

2021年の反省点を踏まえ、2022年の九州現地学習では、3泊4日の日程のうち、2日目に設定したコース別研修のコース企画、宿泊施設でのレクリ

エーション活動、移動中のレクリエーション活動などのデザインを依頼する形とした。現地学習全体のデザインは教員が近畿日本ツーリストと協力して行うこととした。宿泊施設の予約を確保することが最も優先度の高いタスクであるため、訪れる地域と宿泊施設だけは、生徒の関与がない状態で、近畿日本ツーリストと教員とで確定させた。

当初シンガポールを目的地とした海外現地学習を企画しており、新型コロナウイルスの感染状況の見通しが悪いことから行先を国内に変更したという経緯もあり、ある程度は学校の都合を優先させなくてはならない場面もあった。

行先と宿泊施設を確定することで生徒の負担を軽減し、依頼した箇所については自由にデザインするよう依頼した。特に、2年生の現地学習を企画する時期は、開校記念祭や生徒主体で行う歌舞伎上演など、大きな負担を伴う学校行事と時期が近かったため、一部の生徒に過重な負担がかからないように配慮することを心がけた。

#### ○7月中旬

2年次現地学習委員募集に際して、30名超が現地学習委員に手を挙げてくれた。コンペ形式で参加人数が減っていったことの反省を踏まえて、参加した生徒が全員何らかの形で企画に関わることができるよう、全体を5つのパートに分けて仕事を依頼した。3コース分のコース企画の立案、宿泊施設および移動中のレクリエーション企画、の5つである。

#### ○8月下旬

各コース別の企画提出の締め切りをこの時期とした。観光地の予約や入場券の手配などはこの時期に確定させた。

#### ○9月～10月にかけて

食事会場など、細かい部分についての修正依頼等の対応を近畿日本ツーリストの山元さんにしていただいた。生徒が直接山元さんとやり取りをする形を

とっていたため、山元さんの負担はかなり大きかったと思われる。また、教員が状況を把握できていなかった場面もあったため、メールでのやり取りを行う際にはccに教員のメールアドレスを入れるように指導した。また、この時期に各コースの選択人数も確定した。コース選択の前に、企画を考えたメンバーによる各コースの説明会を行い、選択の際の参考となるようにした。

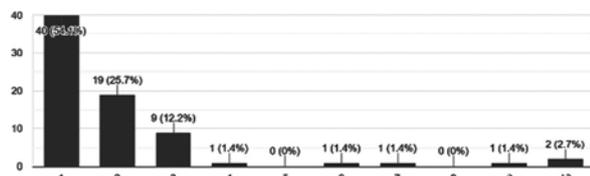
○10月下旬

宿泊部屋の決定、座席の決定、しおりの作成などを行った。しおりの作成のみ教員が行ったが、宿泊部屋決定や電車・新幹線の座席決定などは生徒がすべて手配した。

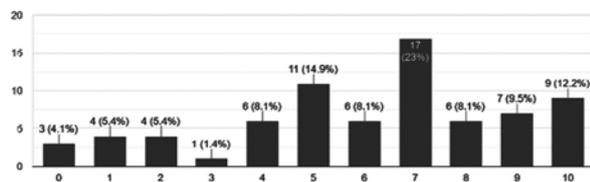
○11月2, 3日

現地学習は全行程予定通りに完了した。現地学習の実施後にとったアンケートの内容を右に記載する。

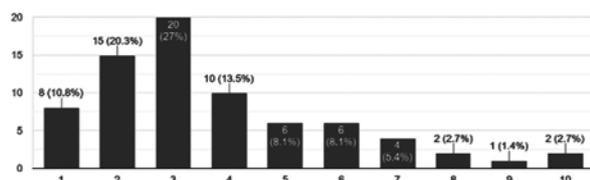
九州現地学習の総合的な満足度を1～10の数値で答えてください。(1が最高、10が最低)  
74件の回答



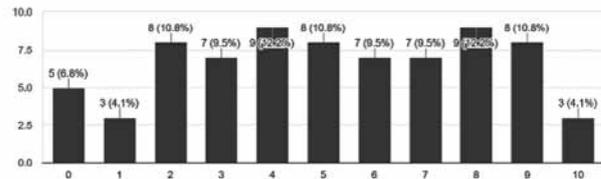
総合的な満足度のうち、企画や予定されていたイベント...合で答えてください。(0が0%、10が100%)  
74件の回答



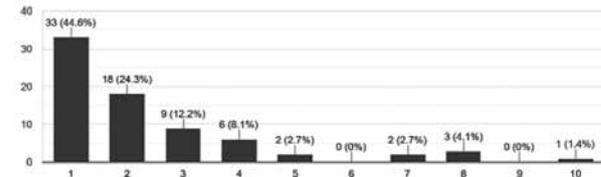
九州現地学習の総合的な疲労度を1～10の数値で答えてください。(1が最高、10が最低)  
74件の回答



総合的な疲労度のうち、企画、予定されていたイベント...合で答えてください。(0が0%、10が100%)  
74件の回答



九州現地学習のうち、現地学習委員会が企画・運営し...数値で答えてください。(1が最高、10が最低)  
74件の回答



九州現地学習のうち、現地学習委員会が企画・運営し...数値で答えてください。(1が最高、10が最低)  
74件の回答

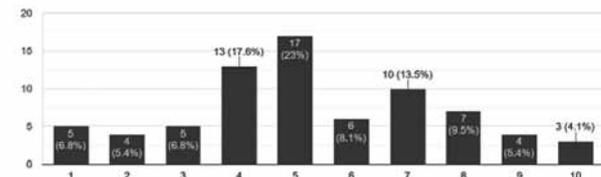


図4 2022年現地学習の振り返りアンケート（金森による）

○現地学習の振り返りアンケート（記述部分）抜粋

- ・時間配分がちょうど良く全てを思う存分楽しみました。行き先の組み合わせも様々な分野に関連するものがバランスよく盛り込まれていてよかったです。
- ・コースごとに異なる趣があり、多くの人が楽しめる内容だったと思う。
- ・自分が死ぬまでに見たかった魚を3匹も見ることができたので大満足でした。その他の場所もかなり楽しく、計画がかなり練られていると感じました。
- ・全行程とても楽しかったです。企画に携わってくださった方々ありがとうございました！
- ・改めてよく考えられたコースだなと感じました。2日目のみならず全体通して担当の方々の働きには心から感謝したいです。

上記のように、企画に対する評価、担当者への感謝等、生徒相互の関係性に好影響を及ぼしたと推定されるアンケートが見られた。

#### ○現地学習委員会のメンバーによる振り返り

- ・自分達が立てた計画で数十人が動くことになるという責任の重さを感じました。
- ・自分が行きたいところをプロデュースできたのが良かった。
- ・コース別の研修が終わった時にAコースめっちゃ良かったよ！と多くの人が言うことで企画して良かったなとおもった。
- ・学校行事の中心に立ってやりがいを感じることができた。
- ・参加を通して、少しの時間のイベントでもいろんな事を綿密に準備しないと失敗せずに終わらないんだと言うこと、リーダーシップの大切さなどを学んだ。
- ・行き先を決めることだけでなく、移動時間や滞在時間を計算することや行く順序を決めることも含めて、コースを企画することが簡単ではないことが分かりました。自分たちが企画したコースを楽しんでくれた人がたくさんいたようなので、企画に関わることができて本当に良かったと思います。
- ・コース別のプランに関われたのはとても有意義だったと思います。この企画に関わることで交流できた人も居るし、実際にこんな企画に関わる機会は今まであまりなかったので、参加して本当に良かったと思います。他のメンバー達とここ行きたい、ここも行きたいなどと話し合いながらプランを練るのはとても楽しかったです。現地学習企画を作って下さって、きっと今しかできないような貴重な経験をさせてくれてありがとうございました。
- ・文化祭やエーリンピアードを初めとする行事が被ったのもあり血反吐が出るような大変さでしたが、終わってみると呆気なかったような気も

します。また、調整等の際には近畿日本ツーリストの方々の御対応も丁寧で助かりました。全体を通して、やり切った感が凄いです。ありがとうございました。

#### ○ポジティブフィードバックの抜粋

上記のように、自己効力感の高まり、現地学習の企画に関わって生まれた責任感など、人格の完成と自己実現を促す貴重な教育機会となった。

- ・お土産のクーポンのことをもっと先に教えてもらえていたら、各コースの中でクーポンの使い方をもっと工夫できた気がします。
- ・みんなの疲労度を軽く考えていた（完璧すぎるプランを作っていた）ため、もう少し余裕持たせてもよかったと思う反面、余分に用意しておいてよかった。自分に関わるイベントの中で大きなハプニングはなかったし、そこはよかった。
- ・先生方からの連絡が遅すぎじゃなかったでしょうか？生徒の自主性を尊重するお考えもわかりますが、しおりの配布(データも含めて)、当日の連絡等もう少し早めしておくべきだったと思います。積極的な方が当日弁当を配ったり、回収したり、しおりについて質問したりしたことなどなかなかよかったように思えます。
- ・去年より先生方の介入が少なかったのでスムーズではあったが、学びの観点がなかった。

#### ○ネガティブフィードバックの抜粋

教員と生徒との間のスケジュール観の合意が取れなかったことや、他の学校行事との関係で負担過重になったこと、学びの観点を明確に設定できなかったことなどが反省点としてあげられる。

#### 4. まとめ・分析・考察（反省）

- ・1年次、2年次と現地学習の企画段階から生徒が関わる場面を作ったことで、行事を自分たちでマネジメントする意識を得ることができた生徒が相当数でてきたことが考えられる。
- ・教員と旅行社の二者間で計画することにかかるコスト（労力）に比べ、生徒が企画や判断に関わることでコストが大きく膨らんだ。メリットとデメリットを比べてメリットが上回るかどうか、視点によって異なるのではないか。
- ・当初、教科の学習とのかかわりが感じられる場面を作ることも目標としていたが、1年次はともかく2年次にはそのことをねらいにはできなかった。その一方で、現地学習は特別活動である、と割り切ってしまうと、「望ましい人間関係を形成」、「集団への所属感や連帯感を深め」、「協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる」ことについては相当程度達成できたのではないかと考えられる。

#### （謝辞）

近畿日本ツーリストの山元智之さんによる助力なくしてこの取り組みは成立しませんでした。教育活動にかかるコストを引き受けてくださったことに心から感謝申し上げます。また、楽しい学校コンサルタントSecond 代表の前田健志さんの「仮想の学校第6弾『修学旅行を科学する』」に大きな刺激を受けたことが、この研究の発端となりました。1年次の企画説明会でもお世話になりました。管理職はじめ、同僚の先生方にもさまざまなお迷惑をおかけしました。ご協力いただきありがとうございました。

#### （文献）

- 佐伯英人・石原貴志・二橋正弘・高柳周三・宮本真由美・齋藤央美（2007）「集団宿泊的行事の教育効果に関する研究（I）」、研究論叢。芸術・体育・教育・心理、

第57巻，P75-83，山口大学教育学部

- 渡會兼也・荒納郁美・金森久貴・室谷洋樹（2021）「海外修学旅行におけるソーシャル・ネットワーキング・サービスの利用」、高校教育研究，第72巻，P75-82，金沢大学附属高等学校
- 楽しい学校コンサルタントSecondホームページ「仮想の学校平和町高校『修学旅行を科学する』」  
<https://secondtanoshiigakko.wixsite.com/mysite/blank-1>（引用日：2023/2/25）